

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870105636
法人名	有限会社 公昌会
事業所名	グループホームひめやまの里
所在地	松山市山越3丁目6番15号
自己評価作成日	平成23年9月1日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成23年10月21日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>・何よりも『私の家族だったら！』と、強い気持ちを持ちながら支援に取り組んでいます。</p> <p>・一人ひとりに作成しているケアプランに沿って満足していただけるようなケアに取り組んでいます。</p> <p>・正面には病院があるため、緊急時は早急に対応できる体制がとれており安心して生活していただけます。</p> <p>・交通の便が良く家族がホームへ立ち寄りやすい。又近くにはスーパーが多くあり買い物しやすい環境です。</p>
---

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>地元からの利用者が多く、近所に住む知り合いの方等がよく来られていて、リハビリ体操と一緒にされることもある。公民館のサークルの方達が、ボランティアで来てくださっており、手品や日舞を披露してくださり、その後にお茶を飲みながら、利用者とおしゃべりなどして過ごして帰られる。利用者は、フラダンスサークルの方に踊りを習って、「瀬戸の花嫁」の歌に合わせて一緒にフラダンスを楽しまれた。近所のスーパーの店員さんは、職員がみな同じズボンを着用しているの、ホームの職員だとよく分かってくださっており、利用者が支払う際には、ゆっくり一緒に見守ってくださっている。</p> <p>毎月、ご家族に送付する書類とともに、行事予定やご家族に準備してほしいもの等をお知らせしている。行事の予定を事前にお知らせすることで、これまで参加が難しかったようなご家族にも行事に参加いただけたこともあり、利用者も喜ばれたようだ。ご家族から、「外出させてほしい」というような要望があったことで、個別の外出支援を考えるきっかけとなったようだ。事業所では、母体病院のリハビリとともに、事業所内でのリハビリ体操や歩行訓練等を支援して、外出の機会を作れるよう取り組んでおられる。</p>
--

### ・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)		

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム ひめやまの里

(ユニット名) 3階

記入者(管理者)

氏名 森 涼子

評価完了日

平成23年 9月 1日

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 事業所理念を皆が見えるところに掲示している。職員も理念について理解し毎日の介護につなげていくよう努力している。	
			(外部評価) 理念は、玄関に掲示されており、管理者は職員会議の中で「理念を意識してケアに取り組んでほしい」と職員に話しておられる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	(自己評価) 季節ごとに施設行事を実施し、地域の方も招待しふれあいができるようにしている。又小学校のPTAコーラスや地域ボランティアの方の出し物など、皆で楽しんで交流している。	
			(外部評価) 地元からの利用者が多く、近所に住む知り合いの方等がよく来られていて、リハビリ体操と一緒にされることもある。公民館のサークルの方達が、ボランティアで来てくださっており、手品や日舞を披露してくださり、その後にお茶を飲みながら、利用者とおしゃべりなどして過ごして帰られる。利用者は、フラダンスサークルの方に踊りを習って、「瀬戸の花嫁」の歌に合わせて一緒にフラダンスを楽しまれた。近所のスーパーの店員さんは、職員がみな同じズボンを着用しているので、ホームの職員だとよく分かってくださっており、利用者が支払いする際には、ゆっくり一緒に見守ってくださっている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議で報告していると同時に入居者にも参加していただくことで認知症の方の理解を深めてもらっている。又身近に相談できる窓口があることも知らせている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議を定期的で開催している。(1回/2ヶ月)地域の方や市役所、入居者家族に日頃の状況を報告し、その都度テーマを決め取り組んでいる。参加して頂いた方からの意見はスタッフに報告しサービス向上や改善につなげている。</p> <p>(外部評価) 近所の方達には、会議の案内を利用者と一緒に届けるようにされている。ボランティアに来てくださる方達のご都合等も聞きながら会議の開催日時を決めておられ、以前、ご家族から「堅苦しい会議は疲れる。」というような意見をいただいたことをきっかけに、行事と合わせて会議を開催したり、年2回は、隣接の協力病院のホールで利用者も出席して食事しながら会議を行い、楽しい時間になるよう配慮されている。製薬会社の方が講師となって「認知症の学習会」を行った際には、多くの地域の方が参加された。</p>	<p>管理者は、今後、ご家族の方や隣接地域の方にも声をかけて、会議の参加者を増やしたいと考えておられた。いろいろな方に参加いただき、事業所の特徴ある取り組みを発信されたり、会議を通じて事業所の専門性を活かした活動にも取り組んでみてはどうだろうか。</p>
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 行事や会議に参加していただいたり、市役所介護保険課や地域包括支援センターには困った事や、運営の対応について適宜相談している。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議時、市の担当者の方から市内の感染症の発症状況等を報告していただいたり、会議後に書類作成等について教えていただくようなこともある。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 玄関も日中は自由に入出りできるようになっている。入居者の安全を考慮しスタッフのシフトを考えて作成している。身体拘束をしないケアに取り組んでいるがスタッフ間で事故防止に向け試行錯誤をし、日々努力をしている。</p> <p>(外部評価) 管理者は、職員会議時に、県がまとめた身体拘束についての資料をもとにして職員と話し合われた。「見守りも度が過ぎると監視につながるのではないか」というような職員からの意見もあり、利用者の安全と自由について話し合われた。利用者がひとりで外出された場合、誰でも探せるように「顔写真入のシート」を準備されていたり、けがや急に症状に変化があった場合には、母体病院・医師と携帯電話で相談しながら対応する等、夜間時の対応のマニュアルを作成しておられる。</p>	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)  身体的虐待だけでなく、言葉の虐待についても接遇教育の中で注意していくよう努めている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価)  成年後見制度を利用している入居者がいるが職員全員が制度について理解できていない。最初は興味深く勉強会をしていたが最近ではテーマに取り上げていない。今後学ぶ機会を増やしていきたい。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)  契約時はゆっくりした口調で説明し途中で理解できているか？又は質問はないか確認しながら行なっている。改正等の際はお手紙と掲示等で知らせている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)  面会時、手紙、電話等で家族からの意向の収集を行い個人にあった援助をしている。又契約時に公的機関への苦情窓口がある事を伝えている。  (外部評価)  毎月、ご家族に送付する書類とともに、行事予定やご家族に準備してもらいたいもの等をお知らせしている。行事の予定を事前にお知らせすることで、これまで参加が難しかったようなご家族にも行事に参加いただけたこともあり、利用者も喜ばれたようだ。2ヶ月毎に発行されている「ひめやま新聞」には、行事等の様子を写真入りで載せておられ、ご家族からは「楽しそう」「安心する」と、感想をいただいている。ご家族から、「外出させてほしい」というような要望があったことで、個別の外出支援を考えるきっかけとなったようだ。事業所では、母体病院のリハビリとともに、事業所内でのリハビリ体操や歩行訓練等を支援して、外出の機会を作れるよう取り組んでおられる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			月に一回の職員会議などで意見交換又は提案をする機会がある。	
			(外部評価)	
			すべての職員で意見を出し合って介護の方法や介護用品の検討を行っておられ、職員個々の意見や気付きを採り入れながら支援できるよう取り組んでおられる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			出来る限り職員の希望は取り入れている。就業規則の作成や健康診断を実施し、体調管理には十分な注意を払っている。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			研修予定日の情報を仕入れ、順番に職員が参加できるよう勤務調整し、職員の質の向上に努めている。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価)	
			城西・勝山地区のGHの連絡会などに管理者、スタッフで案内があれば参加している。	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			入居前に事前調査を行い本人と家族と面会し安心感がもてるように心がけている。サービス開始前にスタッフ全員が事前調査に目を通しその人が安心できる介護ができるよう努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事前調査で時間をかけお話を聞くようにしている。深く立ち入らない程度に家族環境をお伺いし、介護についての要望、不安や困っている事を聞き理解するように努めている。本人と、家族、ホームとの関係作りを心がけている。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居の際ホームの見学をしていただき、本人の意向と、家族の意向を聴取している。必要としている支援をくみとれるよう努力している。必要に応じて他の事業所と連絡をとっている。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 入居者の気持ちを常に考え一緒に楽しむ時間をもっている。入居者にもその都度意見を聞いたり、人生相談などしたり、共に良い関係を築いている。	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) スタッフと家族とのコミュニケーションをもち色々話し合っている。季節ごとの行事参加の声かけをしたり、ホーム内で何か変わったこと、伝えておくべき事ができた場合には家族へ報告、連絡をし詳しく伝えることに努めている。双方が安心できる関係を築けるよう努力していきたい。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 入居者の知り合いの方の訪問や郵便物などある場合には本人へ知らせ、又いつでも交流ができるように面会時間の制限を設けていない。馴染みの場所との関係を保つのは難しい事もある。 (外部評価) 散歩の途中、近所の知り合いの方とおしゃべりを楽しまれたり、女学校時代からのお友達が訪ねて来てくださる方もいる。県外の知り合いの方から手紙が届き、お返しに愛媛のみかんを送ることをサポートされた。ご家族から手紙が届いた際には、利用者が書いたお返事を職員が預かりポストに投函されることもある。ご家族が寝具持参で泊まられたり、ご家族とお墓参りに出かける方もいる。ご家族や職員が同行してカットに出かける利用者もいる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 毎日レクリエーションを行い入居者同士交流が持てるようにしたり職員も交えて雑談する時間をとっている。入居者同士それぞれが居室に行き来されお話をされゆっくりしている事もある。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービス利用が終了してもこれまでの関係を大切にしてい何か相談があればフォローできるように努めている。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 希望を言える方に対しては聞き取りをし希望を実現できるよう支援。言えない方には家族に聞いたり生活の中での楽しみを把握し本人本意の生活ができるよう努力している。ケアプランを作成し日常生活の支援に活かしている。 (外部評価) 管理者は「要望があるときは、遠慮なく話してほしい」と利用者やご家族に伝えておられる。「何でもいい」と言われるような利用者には、選んでもらう等して、ご自分で具体的に決められるように支援されている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 事前調査や家族からの情報をもとに細かい部分まで把握するように努めている。本人との会話の中からこれまでの暮らしや覚えている事を聞き、把握に努めている。すべて理解しているわけではないが本人、家族に聞き一人ひとりが安心して暮らせるように努力している。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの思いを大切にその人が過ごしたい一日を過ごせるように努めている。バイタルチェックを行ったり、体調管理をしたり一人ひとりをよく観察し心身状態の把握に努めている。できる事などはしていただきその人が有する力を出せるよう支援している。	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>個々の介護記録を元に入居者が抱えている問題や身体状況など本人、家族とも話す機会をもうけ、主治医とも相談しながらカンファレンスを開いて意見を出している。3ヶ月毎にモニタリングをし介護計画の見直しもを行っている。現状に即した介護計画が作成できるよう心がけている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>事業所では、リハビリ体操等を行い、利用者の身体機能の維持向上への取り組みに力を入れておられる。介護計画は、3ヶ月毎の見直しと、状態変化時に見直すようにされている。利用者・ご家族から生活への希望をお聞きしたり、職員から情報を集めて計画に採り入れておられる。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>毎日の個別の介護記録でバイタルや体調の変化を誰が読んでも分かるよう詳しく記録している。それを元に毎月の職員会議、カンファレンス時にケアプランに基づいたサービスが実施できているか？新たな課題等も話し合い介護計画の見直しに活かしている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>かかりつけ医へは定期的に受診する。その他の歯科、皮膚科、心療内科などは往診していただけるようになっているが、その他の科への受診は家族に協力していただき継続して治療が受けられるよう援助している。必要な買い物等もスタッフが行うこともある。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>かかりつけ医へは定期的に受診する。その他の歯科、皮膚科、心療内科などは往診していただけるようになっているが、その他の科への受診は家族に協力していただき継続して治療が受けられるよう援助している。必要な買い物等もスタッフが行うこともある。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>地域のボランティアを招いてホームで楽しむ機会を設けている。フラダンス、幼稚園への訪問、マジック、昔話の朗読会など地域と交流し楽しんでいる。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>地域のボランティアを招いてホームで楽しむ機会を設けている。フラダンス、幼稚園への訪問、マジック、昔話の朗読会など地域と交流し楽しんでいる。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>地域のボランティアを招いてホームで楽しむ機会を設けている。フラダンス、幼稚園への訪問、マジック、昔話の朗読会など地域と交流し楽しんでいる。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	(自己評価)	
			<p>定期的にかかりつけ病院へ受診、定期薬の処方を受けられるよう支援している。受診時には普段の様子が分かるようにバイタル表や介護記録を持参している。又受診以外でも往診や電話での相談、説明にも応じていただき支援している。</p>	
			(外部評価)	
			<p>母体病院への受診時には、利用者個々の状態や様子がわかるよう介護記録を持参して、医師に利用者の状況を説明されている。必要に応じて歯科や皮膚科の往診を受けられるようになっている。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	(自己評価)	
			<p>常に看護職と連絡がとれるようにしている。日常生活に変化があれば記録に残し様子が分かるようにしている。入居者、家族が安心して生活できるよう支援している。</p>	
			(外部評価)	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	(自己評価)	
			<p>入、退院時には医師・看護師・家族・ホーム職員と情報交換し、医師からの病状説明などにも同席させていただいている。今後の事についても三者で相談できる場を設けている。</p>	
			(外部評価)	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	(自己評価)	
			<p>看取りや重度化した時のアンケートを入居時にとっている。重度化した場合や終末期になった時にはもう一度家族と話し合うようにしている。医師・看護師・ホームスタッフで症状の変化の度に協議を重ねている。</p>	
			(外部評価)	
			<p>今年は、4名の利用者の看取り支援を行われた。入居時、利用者・ご家族には、終末期のあり方についてのアンケートを取り、又、利用者の状態に応じて、ご家族・医師・職員で話し合いながら方針を共有して支援されている。「痛みだけはないように」と希望する方が多くあり、医療行為でできる限界や看護師が行えること等も説明されている。ご家族は、頻回にご本人に会いに来られ、夜間や人手が足りない場合は、各ユニットの管理者がサポートに入る体制となっている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 事故発生時対応マニュアルを作成し、病院・医師・看護師へ連絡がとつながる様になっている。入居者の毎日の体調や変化について細かく申し送り記録している。『応急手当について』の勉強会へも参加している。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に防災訓練を実施している。地域の方も参加され、電話のかけ方や消火器の使い方も消防署の方の指導を受けている。スプリンクラーの設置も終了している。 (外部評価) 事業所は、2階と3階に位置しており、避難訓練を行った際には、近所の方にも参加していただき、利用者を各階の防火扉の向こうまで誘導し、見守りをしていただいた。通報訓練や避難誘導・誘導後の行動・スプリンクラーの止め方等を消防署の方から指導いただいた。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりそれぞれ個性があるということを強く思いながらその人にあった生活習慣や希望など傾聴し自尊心を傷つけないよう、言葉かけをおこなっている。時と場合により言葉遣いを考えている。 (外部評価) 耳やことばが不自由な利用者とは、職員が手話で会話をされている。利用者は今まで苗字で呼ばれることが多かったことを知り、名前でなく苗字でお呼びしている。調査訪問時、トイレ誘導等は、耳元で小声で声をかけておられた。職員の方は「一人ひとりを大切に楽しく生活して生きたい。」「大先輩のことを敬いながら対応したい。」と話されていた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人にしたいことの意味を確認したり、選択肢の中から選ぶよう配慮している。思いや希望をうまく表せない方には興味のあるような事を提案したりする。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) レクリエーションの時間等で入居者から何がしたいのか聞いたり自己決定を尊重している。個々で三味線を楽しまれたり職員と一緒に作品作りをしたり自由に過ごせるよう支援している。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 定期的に美容師に来てもらったり、個々の馴染みの化粧品や髪留め、スカーフを身につけられたり適宜ひげ剃り、爪きりの介助を行っている。更衣では好きな洋服を選んでいただいたり生活の意欲が湧き楽しく過ごしていただけるよう支援している。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 旬の食材を使用し献立に季節感を出したり、利用者の嗜好を取り入れたりしている。時には外食もしている。食事は職員と一緒に会話をしながら楽しい時間になるよう心がけている。入居者と下準備や盛り付け、食器拭き等お手伝いもできるようにしている。	
			(外部評価) 業者の献立に沿って食材が届くようになっており、それをもとに事業所で調理されている。行事ごとには、ちらし寿司などを手作りされている。利用者から「今度は、まき寿司が食べたい」と希望があり、職員が、巻きずしをうまく巻けるか心配されていると、利用者が「私が巻いてあげる」と言ってくださり、現在、まき寿司を作る日を計画中であった。ご自分の好みのバターを購入して、朝食にパンを食べる利用者の方もいる。食事制限のある利用者の場合は、母体病院の栄養士と相談して、主食を計量されたり、食材を加減する等しておられる。調査訪問日、昼食のカレーは「お皿では食べにくい」と言われる利用者の方に、お椀に入れ替えて食べやすいようにされていた。食後、テーブルを拭いたり、下膳される利用者もみられた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個別に食事量を調節し、一人ひとりに合わせておにぎりや、お粥、刻み、ミキサーにしている。又食べられない食材等は職員全員が把握できるように掲示している。水分補給では食事以外にも飲用する時間をとっている。体重測定も定期的に行っている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後口腔ケアを実施できる場所は見守りし、一人ひとりに合わせて職員が介助している。定期的に義歯の洗浄を行い口腔内を清潔に保っている。本人希望や口腔状態に応じて歯科往診も行っている。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄パターン把握の為、排泄チェック表を作り時間帯など、それぞれの入居者に合わせて対応している。排泄時間を声かけし、オムツ使用の入居者は定期的にトイレ誘導し排泄してもらえるように実施している。又トイレの場所が分かるように張り紙をしている。	
			(外部評価) 居間に面した場所にトイレが2カ所あり、利用者個々の居室に近い場所のトイレを使用する方が多く、居室の出入りの際等には、トイレに行けるよう声をかけて誘導されている。夜間は、「間に合わないといけないから」とポータブルトイレを希望される利用者もおられ、目覚めた時に希望をお聞きして、トイレに誘導されることもある。利用者自身で排泄チェック表を付けておられる方もいる。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 毎日牛乳や乳製品等を取り入れている。食物繊維を多めに摂取してもらうように家族の協力もいただいている。薬の副作用などで便秘が考えられる場合も水分の摂り方や運動(腹部マッサージ)で改善できるように努力している。又運動も日課としている。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴時間や曜日はホームの都合で決めているが、その時の個人の体調に合わせて、シャワー浴、足浴などもその時に合わせて行っている。ゆっくり入浴できるようマンツーマンでコミュニケーションをとりながら支援している。安全の為に手すりや滑り止めマットを使用したり、機械浴が必要な方は使用している。	
			(外部評価) 病院受診日等も踏まえて、入浴日を調整しておられ、利用者は、だいたい2~3日に1回は入浴できるよう支援されている。入浴を嫌がられる場合は、時間をおいて声かける等して、ご本人が納得して入浴できるよう支援されている。肌が敏感な利用者の方には、刺激の少ない石鹸を用意されたり、又、ご本人が気に入った石鹸を使用されている。以前から、年中カイロを使用される方がおられ、夏場の入浴時にはあせも用の石鹸を用いるようにされている。利用者が、ひとりで入浴される場合は、時々声をかけ、職員が見守りながら入浴されている。季節に応じて、菖蒲湯・柚子湯・みかん湯を楽しまれ、利用者は「今日は、お湯のにおいが良かった」と、喜ばれるようだ。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 好きな音楽やラジオを聴いたり、テレビを観たりして、リビング、居室でもくつろげる環境作りをしている。愛用の寝具を使用している。いつでも休息できるようになっている。又リビングにソファがあり誰でも休めるようになっている。居室の温度・換気にも注意している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一人ひとりの薬の情報をスタッフ全員が把握できるようにしている。服薬時はスタッフ同士で日付、名前を確認し本人が内服するまで見守りをしている。症状の変化がないか毎日バイタルチェックを行っている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 毎日みんなでリハビリ体操をしている。入居者に何がしたいのか聞いてレクリエーションをしているが何がしたいのか返答が無い事がほとんどの為、スタッフが楽しんで参加していただける事を考えている。又食器拭きや洗濯物たたみができる方にはしていただいている。個人の趣味の時間も大切にしている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 行事として気候のいい時に外出を取り入れている。家族さんにも協力していただき外食や買い物に行かれている。今後は個別支援に力を入れていく。	
			(外部評価) 利用者の身体レベル等に合わせて、2~3人ずつで外出できるように取り組まれており、喫茶店でお茶を楽しまれたり、回転寿司等の外食にも出かけておられる。馴染みになった店では、割引券を使ったり、馴染みのお客さんから声をかけてもらったりすることもある。介護度が重度の利用者の方とケーキを食べに行かれた際には、利用者の方がご自分でスプーンを使ってケーキを食べられたことに、職員は驚いておられた。道後温泉の足湯に出かけたりされている。	利用者の体調等も考慮しながら、利用者の馴染みの場所に出かけるような取り組みも検討をされている。利用者個々の希望やご家族等とも相談しながら、利用者一人ひとりがその人らしく暮らし続けるための支援をすすめていかれてほしい。又、外出支援のサポートをしてくれるような方を増やして、いろいろな方と協力し合って、利用者の地域での暮らしの拡がりを支えていかれてほしい。
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) スタッフと一緒に買い物に行き、支払いもスタッフと一緒にしている。皆との外出の際も本人が欲しい物を買われている。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) いつでも電話ができるようにし、本人からの希望があればスタッフがかけて本人に代わったりしている。手紙も本人が書けない場合は代筆したり、ポストに投函している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 一日の大半を過ごされるリビングには壁画や花を飾ったり、入居者が制作される月ごとの作品を貼り季節の移り変わりを感じていただけるような空間作りをしている。	
			(外部評価) 職員が季節に応じてテーブル等にお花を生けておられ、「お花、小さくてかわいいね」等、利用者はお花の感想等をよく話してくださるようだ。2階ユニットの壁には、運動会の玉入れ、3階は、ご自分の顔写真や折り紙を使ってかくや姫をテーマにした作品の壁画を飾っておられた。ひめやま新聞や利用者の作品等も飾っておられる。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 食事、レクリエーション、リラックスタイム、おやつ時間などその場面場面での席移動や共用空間にソファを置き気のあった同士での楽しい時間を過ごせるような場所作りをしている。	
			(外部評価)	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ホームでベッドとチェストは用意している。他は自宅で使用されていた使い慣れた物を持参していただいている。家族さんが花や人形、家族写真等を持って来られ、それぞれ居室は個々の生活にあった場所となっている。	
			(外部評価) ご家族の写真を飾られていたり、ご自宅で使っておられた鏡台や仏壇を持って来られている方もある。時々、ご自分のお琴で練習をされる方もいる。掃除専門の職員を配置しておられ、利用者の方と一緒に掃除されている。夏場、クーラーや扇風機を嫌がられる方には、直接風が当たらないように配慮されたり、居室の扉を閉める習慣のある利用者には、居室で過ごす15分前に、温度や湿度を調整できるように気を付けておられる。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) エレベーターや要所には手すりが設置されている。又浴槽には滑り止めマットを使用。ホーム内は段差もなく安全に過ごせる。居室のベッドも高さが入居者により合わせられるようになっている。居室の入り口には目線に合わせた高さで名前を大きく貼ったり、トイレも大きく表示したり、できるだけ自立できるよう工夫している。	
			(外部評価)	